

# 相撲の衣服に関する考察（第1報）

—— 力士の「ゆかた」について ——

The Observations of Sumo-clothes (Part 1)

—— About Sumo-wrestler's "Yukata" ——

本 間 小 枝 子

Saeko Homma

In making Japanese style clothes of Sumo-wrestlers, it is necessary to make out the size of them. So I took their measurements and examined their size, cutting and sewing. As a result, since their measurement is larger than that of the ordinary people, you must devise the cutting when you use limited cloth; especially widening "okumi-haba", dividing at sleeve. If the wrestler is particularly larger, you have to divide at "migoro".

In sewing, it is general to handsew at the right side and to use the sewing-machine at the wrong side in order to make strong nowadays.

## I. はじめに

相撲は国技として盛んであり、日本の伝統文化を継承しながら徐々に変化し、今日の国際化の時代を迎えている。しかし、相撲界は未だに厳しい階級社会であり、力士の衣生活についても厳しいしきたりがある。

相撲の人気は日増しに高まり、著書が多いにも拘らず、服装特に和服構成について書かれたものは少ない。相撲関係の衣服の調整は限られた専門店が扱うという特殊性なのであろうか。

土俵の上の力士は裸に「まわし」といったスタイルであるが、日常生活においては、最近、若い力士のあいだではトレーニングウェアにスニーカー姿も増えているが、やはり和装で特に「ゆかた」が主流をなしている。

そこで、和服を構成するにあたって、力士は一般の人より大きいというだけで、その体形などについては明らかにされていないので、力士の身体計測を行い、和服に必要な寸法、裁ち方、縫製について検討したいと考え本調査を行った。

## II. 考察

### 1. 力士の着装のきまり

力士の衣服着用状況をみると表1のようであり、番付によって着用の衣服が定められている。

表1 力士の着装のきまり（1994年現在）

番付	着衣	帯	履物	まわし他
序ノ口	夏：浴衣 冬：ウールのひとえ	ベンベルグ・綿製などの帯	下駄素足	黒または紺の木綿
序二段	同上	同上	同上	黒または紺の木綿 「さがり」は木綿で、数も少ない
三段目	羽織着用可	同上	雪駄素足	行事（弓取り、初切り、相撲甚句）等の際大銀杏を結ってよい。
幕下	コート、マフラー着用可	博多帯	雪駄足袋	同上
十両	紋付き羽織袴（正装）	同上	同上	けいこまわしは白木綿 取りまわしはしゆす（正絹）、下がりも同じ 化粧まわしを「十両土俵入り」で披露 大銀杏を結う
前頭 横綱	同上	同上	同上	同上

序ノ口では夏は「ゆかた」、冬は「ウール」のひとえのきものにベンベルグの帯を締め、素足で下駄をはく。序二段では、序ノ口の着用状態と同じである。三段目では、序二段の着用の他に羽織が着用できるようになり、下駄から雪駄となる。幕下になると、コート、マフラーの着用が許され、博多帯を締め、履物は雪駄（但しビニール張り）に足袋も着用してよいことになる。

十両以上になると関取と言って別格扱いとなり、付け人が付き、着装は紋付き羽織袴、履物は畳張りの雪駄に足袋の正装となる。

以上のように階級（番付）により着装に差異がみられるが、全力士に共通して着用されるのは「ゆかた」と「ウール」のひとえ長着ということになる。

なお、各部の品名などについて述べれば下記のようなものである。

#### 1) 肌着

上半身はダボシャツ（冬は半袖、夏は袖なし）で、前開きをボタンでとめ、着脱の際鬘が崩れないようになっている。シャツの胸にはしこ名あるいは本名が入っている。下半身は白のパンツとステテコである。

#### 2) 足袋

幕下以上では足袋底が三重に補強されている。正装用の足袋は綿・絹製の5枚こはぜ、稽古足袋は足袋底が二重になっており、糸で補強が施されている。

#### 3) 下駄

素材は桐（固い部分を使用）で、歯は普通の倍の厚みとなっている。自分の下駄を見分け易く

するため、鼻緒に凝る力士も多い。

#### 4) ゆかた

毎年夏場所前に関取は祝儀の挨拶として、しこ名入りの「ゆかた」を作り、後援会関係者、先輩力士、仲間などに浴衣地を贈り、これを貰った力士は「ゆかた」を仕立てて着るのが礼儀とされている。

幕下以下の力士は関取衆のお古を貰ったり、各部屋の親方から部屋名の入った「ゆかた」を仕立ててもらうこともある。

#### 5) 甚平

最近「ゆかた」の代わりに甚平を着用することが多い。上は筒袖の着物式、下はパンツ式でゴムを入れる。

#### 6) 帯

帯幅48cm、長さ600cm内外で、幅を三つ折りにして使用する。三段目以下はベンベルグ・綿製などで、幕下以上は博多帯となる。

#### 7) 雪駄

三段目以上の力士が履くことができる。幕下以上の力士は畳張りの雪駄を履くことができる(畳張りには竹皮を編んだものもある)。力士が普段使用するものはエナメルあるいはビニール製が多い。

## 2. ゆかた

江戸時代に現在の相撲の原形が形成されて「相撲会所」が組織され、人気力士(谷風、小野川、雷電など)の登場によって江戸相撲が民衆の娯楽として隆盛を極めたとされているが、「ゆかた」も同時代に登場し、風呂上がりのくつろぎ着として、白地に藍染の「ゆかた」が江戸市民に親しまれたことなどを考え合わせると、力士の粋なゆかた姿は、今なお日本の服装として継承されていることになる。

東京・両国の国技館では、大相撲夏場所になると、両国ゆかたファッションショーとなる。図1は1994年5月調査の結果である。

ゆかたの素材は綿、染めは中形染で、伝統的な白地に紺、柄はしこ名の入ったものが多い。その他に白星や開運のための図柄、有名デザイナーなどによる大胆でカラフルなもの、人文字絵など多種多様である。

## 3. 身体計測・和服寸法

調査対象は力士16才～26才までの20名で、調査時期は1995年2月と8月の2回にわたって行った。

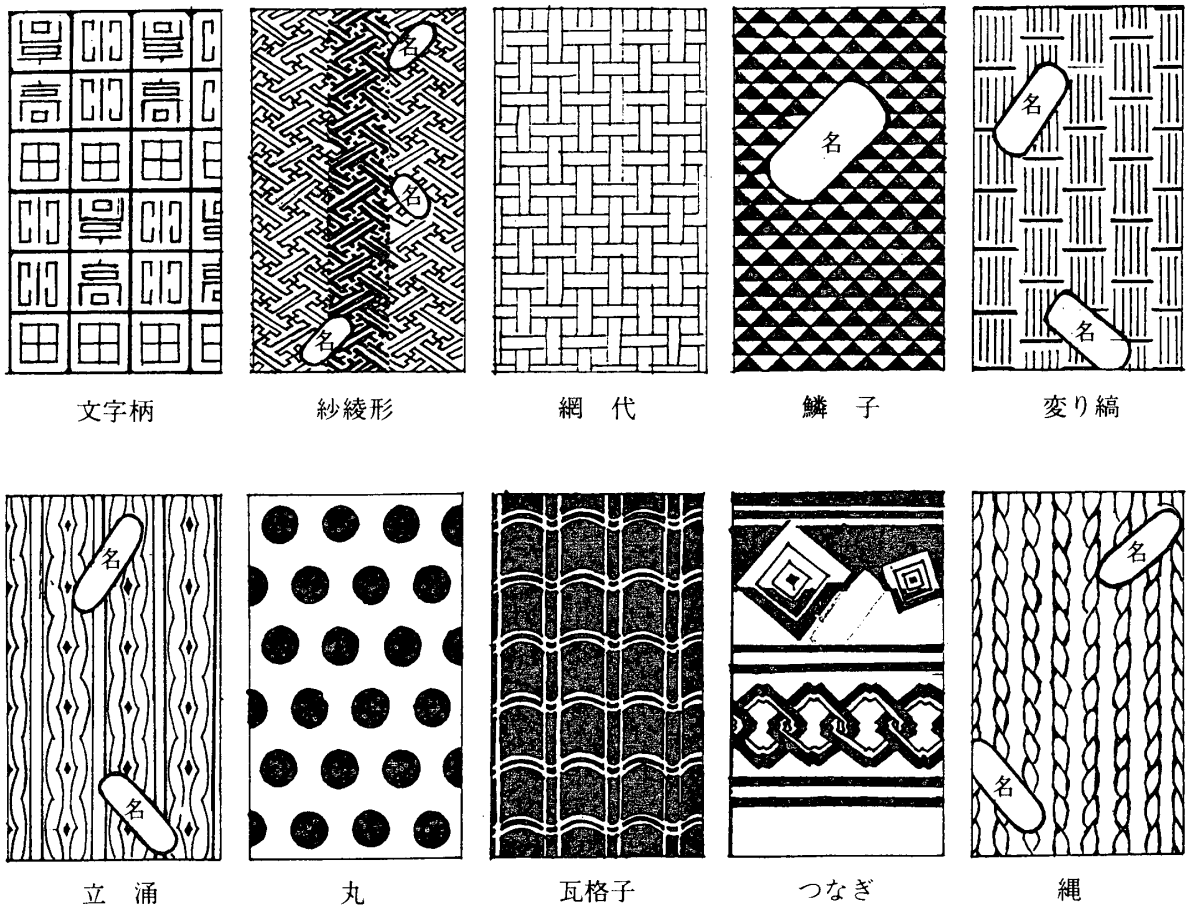


図1 ゆかたの柄

身体計測・採寸は裸体にパンツの状態で，身長，胸囲，体重，着丈，背総丈，背丈，腰下丈，前上腸骨棘高，ゆき，頸付根回り，腕付根回り，胴回り，腹回り，腰回り，外果高，手長，衽下りを紙・綿テープ，メジャーなどを用いて測ったものである。

主な計測方法は下記のようなのである。

- (1) 着丈：頸側点から前後にテープを垂らして床までの寸法の1/2－外果高
- (2) 背総丈：頸椎点から床までの寸法－外果高
- (3) 背丈：頸椎点から胴回り線まで
- (4) 腰下丈：胴回り線から床まで
- (5) 前上腸骨棘高：腸棘点より床までの寸法－外果高
- (6) ゆき：上肢を側方水平にあげて，頸椎点から手首点まで
- (7) 頸付根回り：頸の付根回り
- (8) 腕付根回り：腕の付根回り
- (9) 胴回り：胴の回り
- (10) 腹回り：腹の回り

- (11) 腰回り：腰の回り
- (12) 外果高：外果点から床まで
- (13) 手長：手根関節から中指の先端まで
- (14) 衽下り：頸側点から乳頭間幅の中央まで

#### 1) 力士の体格

力士の身体寸法・和服寸法は表2のようである。

力士を志望する者は必ず相撲部屋に入門する。そのためには、入門規定に「15才以上23才未満の義務教育を終了した男子で、身長173cm以上、体重75kg以上」と定められているので、この条件を充たしていることが必要である。

本調査では年齢は16才～26才までと10才の開きがあり、身長では173cm～190cmで、平均値は179.5cm、体重は84kg～155kgで平均値は116.8kgであった。国民栄養の現状（厚生省保険医療局健康増進栄養課）平成6年度版の平成4年国民栄養調査成績の20才の身長157.3cm、体重63.6kgと比較すると力士の方が身長で22.2cm、体重で53.2kg大きく、体重は一般人の1.8倍である。

#### 2) 身長と着丈との関係（図2(A), 図2(B)）

身長が高くなるにしたがって着丈も長くなる傾向にあるが、肥っている人は肩で着るので着丈も長く必要となる。また、着丈は身長の80%～85%におよんでおり、平均は83%であった。したがって、着丈は身長の83%内外として求めることができる。

#### 3) 身長と背総丈との関係（図3(A), 図3(B)）

身長が高くなるに従って例外を除けば着丈は長くなる傾向にあり、背総丈は身長の79%から82%の人が殆どである。平均は80.3%であることから、背総丈は身長の80%内外とみなすのが適当と考えられる。

#### 4) 着丈と背総丈との差（図4）

背総丈に5cm加えたものが20%と最も多く、3cm、4cm、6cm、7cmが各々15%となっている。これは肩の厚み分と考えられるので、アンコ型（肥満体）とソップ型（痩せ型）によって加減しながら、アンコ型の方は5cm以上、即ち肩の前後3.8cmづつとすれば、約8cm加える必要がある。

#### 5) 身長とゆきとの関係（図5(A), 図5(B)）

ゆきは72cm～81.5cmにおよんでおり、74cmの者が7人（35%）と最も多く、ついで76cmの順となっている。

また、ゆきは身長の41%～43%の間に集中していて、平均が42.5%であることを考えると、ゆきは身長の42%内外とみることができる。本調査では、ゆきを前方90度、45度、30度などの計測を予定していたが、力士が肥っているためポーズが難しく、上肢水平のみとした。若い人は和服を洋服感覚でとらえ、長めを好む者が多いので、上肢水平の値に2cm位加えるのが適当かと考える。

表2 身体計測・和服寸法

No.	氏名	年齢	身長 cm	胸囲 cm	体重 kg	着丈 cm	背総丈 cm	背丈 cm	腰下丈 cm	前上臍骨高 cm	ゆき水平 cm	頸付根回り cm	腕付根回り cm	胸回り cm	腹回り cm	腰回り cm	外果高 cm	手長 cm	下り cm	※H寸法に 対する値			HよりWか腹まわ りが大きい場合				
																				後幅 cm	前幅 cm	衿幅 cm	後幅 cm	前幅 cm	衿幅 cm		
1	I・H	19	173	109	101	142	136.5	48	97.5	85.5	74.5	54	48	108	108.5	116	9	19	33		37.3	29.8	19.9				
2	D・N	20	173	141	155	143.0	136.5	41	107	89.5	79	53	59	145	145	145	8.5	21	31		46.6	37.3	24.9				
3	K・T	18	174	123	128	139	134.5	43	107	87.5	74	55	51.5	121	130	128	9.5	19	32		41.1	32.9	21.9				
4	U・S	16	175	105	103	144.7	144	45	109.5	93	74	55.5	53	107	106.5	110	9	20	32		35.4	28.3	18.9				
5	I・T	18	176	104	84	144.8	139.5	46	103.5	91.5	76.5	49	49	81.5	87	98	8.5	20.5	31		31.5	25.2	16.8				
6	S・Y	17	176	126.5	118	147	143	52	99.5	98	76.5	57	56	112.5	117	120.5	8	19.5	33.5		38.7	31.0	20.7				
7	H・S	20	177	118	100	145.9	142	48	104	90	72	57	55	110	102	109.5	8	20	32.5		35.2	28.2	18.8	W	35.4	28.3	18.9
8	T・B	21	177	125	128	149.8	141	47	104	90.5	74	55.5	60	119	125	122	9	20.5	34		39.2	31.4	20.9	腹	40.2	32.1	21.4
9	K・R	20	179	106	87	145	140	52	100	92	74	51	54	83	87.5	102	9	21	32		32.8	26.2	17.5				
10	E・G	17	180	106.5	105	149.5	146	46	107.5	93.5	77	55.5	53	110	111	112.5	9	19.5	32		36.2	28.9	19.3				
11	K・M	20	180	122	120	148	145	45	110	92.5	74	51	54	116	122.5	119	10	20.5	32		38.2	30.6	20.4	腹	39.4	31.5	21.0
12	K・H	24	180	111.5	116	152.5	147.5	50	109	97	79	49	57.5	106	106	110	9	21.5	31		35.4	28.3	18.9				
13	T・K	17	181	111.5	94	149	143	47	104.5	91	74	54.5	55.5	94	95	109	9	21	31		35.0	28.0	18.7				
14	T・U	18	181	107.5	94	151.3	145	48	106.5	93	76	53.5	51.5	94.5	99	106.5	8.5	20.5	33		34.2	27.4	18.3				
15	K・N	19	181	132.5	140	151.3	144	53	104	89.5	76	56	65	127.5	127.5	130	10	21.5	33		41.8	33.4	22.3				
16	T・H	22	181	113.5	105	150.5	147.5	45	111	90.5	81.5	51	57.5	106.5	115	112	9.5	19.5	31.5		36.0	28.8	19.2	腹	37.0	29.6	19.7
17	T・N	18	183	133.5	138	155.5	153	51	113	96	77	59.5	62	129	129	126	9	20.5	34		40.5	32.4	21.6	腹	41.5	33.2	22.1
18	N・U	23	183	128.5	144	152	151	51	110	92.5	78	56.5	61	126.5	128	133	9	19.5	35		42.7	34.2	22.8				
19	K・A	18	190	130	149	160.5	153.5	46	118	98.5	80	59	64	132	132.5	130	9.5	22	35		41.8	33.4	22.3	腹	42.6	34.1	22.7
20	Y・N	26	190	119	127	158	149	54.5	115	99	79	48	53.5	115	117	119	9	21	32.5		38.2	30.6	20.4				
	平均値		179.5	118.7	116.8	149.0	144.1	47.9	107.0	93	76.3	54.0	56	112.2	114.6	117.9	9	20.4	32.6		37.9	30.3	20.2				
	標準偏差		4.6	7.1	20.8	5.2	5.2	3.4	5.0	3.6	2.4	3.2	4.6	15.5	15.3	11.3	0.5	0.8	1.2		3.9	2.9	1.9				

注) ※ Hは腰回り Wは胸回り  
普通寸法の配分比15:12:8による仮定寸法

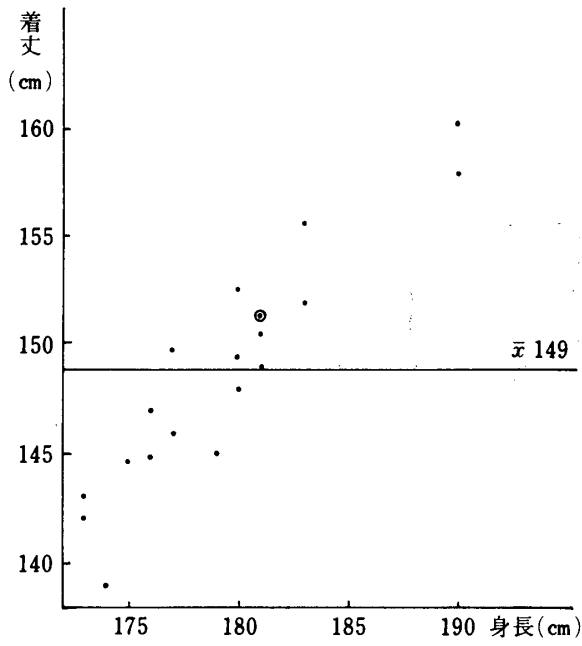


図 2(A) 身長と着丈との関係

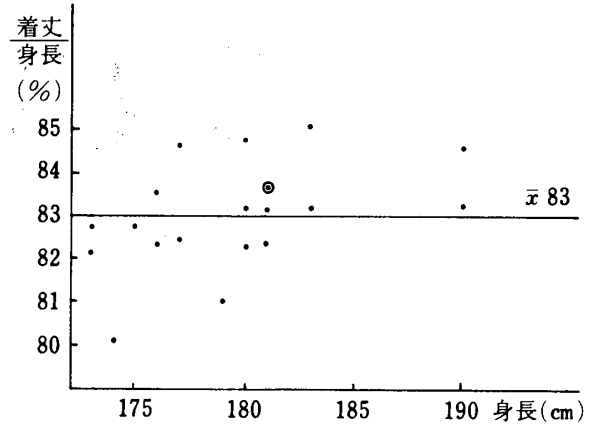


図 2(B) 身長と着丈との関係

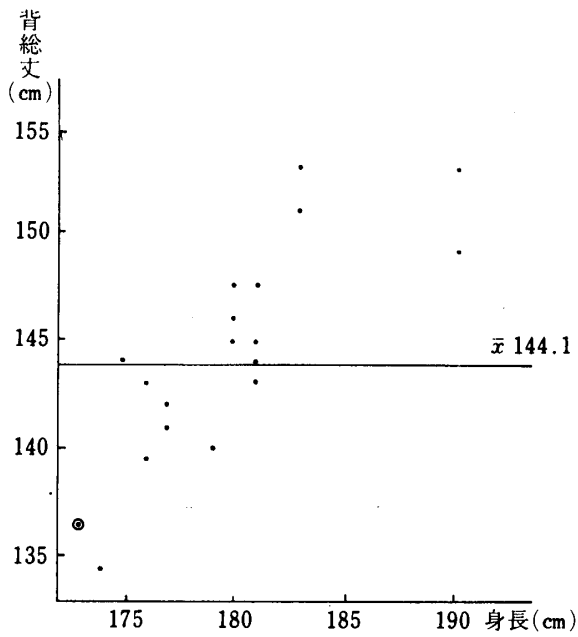


図 3(A) 身長と背総丈との関係

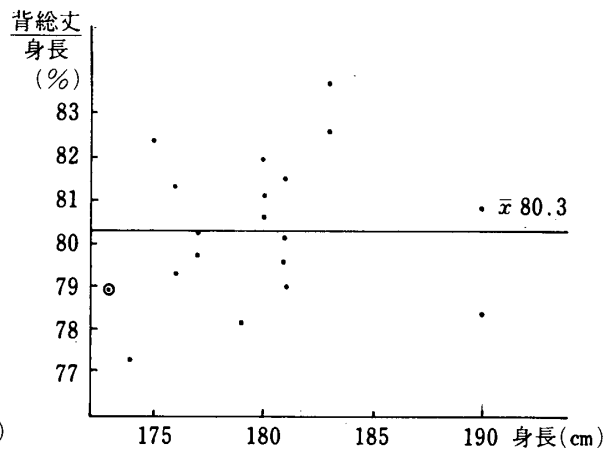


図 3(B) 身長と背総丈との関係

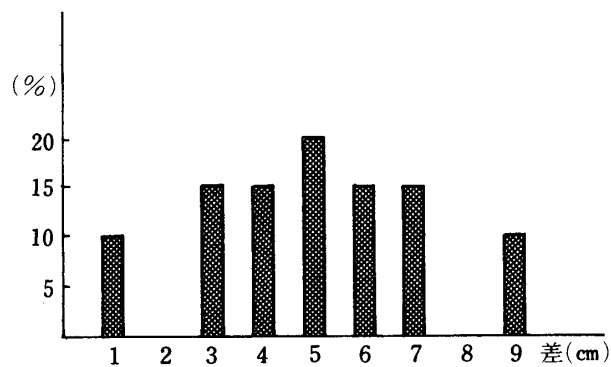


図4 着丈と背総丈との差

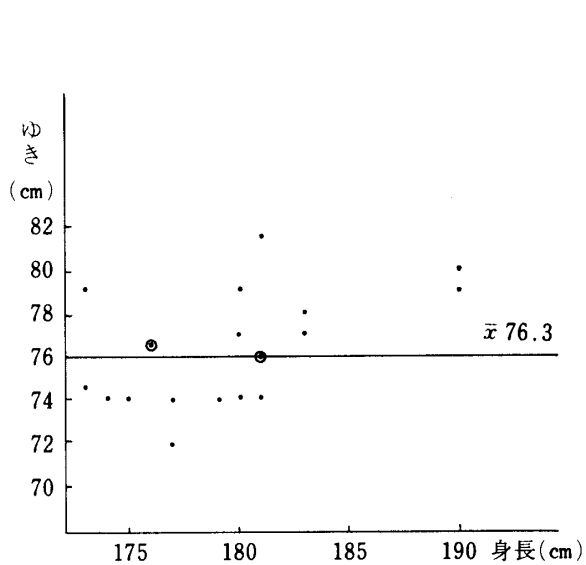


図5(A) 身長とゆきとの関係

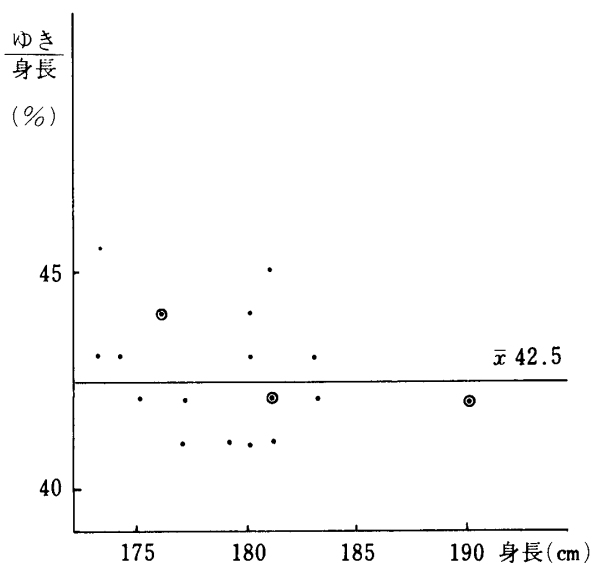


図5(B) 身長とゆきとの関係



6) 身長と前上腸骨棘高との関係 (図 6 (A), 図 6 (B))

前上腸骨棘高は身長が高くなれば高くなる傾向にあるが、平均値が93cmであることから、93cm内外とするのが適当かと考える。また、前上腸骨棘高が主に身長50%~53%に存在し、平均値が51.8%であるから52%内外とみなすことができる。前上腸骨棘高は衿下を決める重要な位置であるので、帯を締めるとき、帯から下に6cm位衿先が出るのがよいとされている。これを考慮しながら衿下を決める。

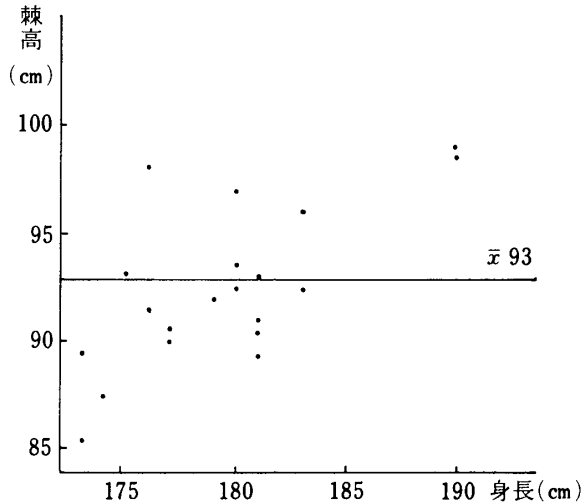


図 6 (A) 身長と前上腸骨棘高との関係

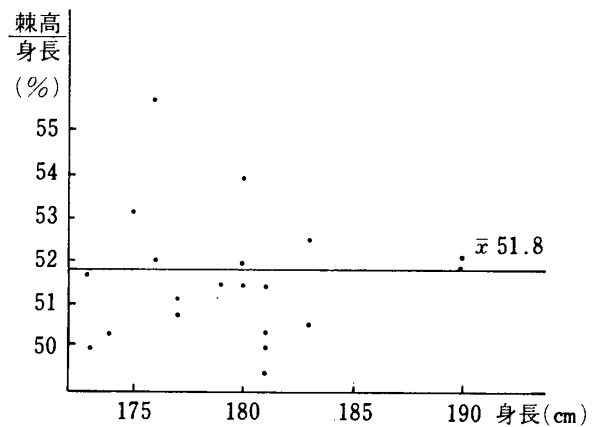


図 6 (B) 身長と前上腸骨棘高との関係

7) 頸付根回り

頸付根回りは衿肩あきの寸法を決める個所である。衿肩あきは

$$\text{頸付根回り} \times 1/6 + 1.5$$

頸付根回りの平均値は54cmで上式によって衿肩あきを求めれば10.5cm、最大59.5cmの人でも11.4cmである。したがって10~11cmとするのが適当であろう。大き過ぎると衿が首から離れて格好が悪いので、力士だからと言って必要以上に開けないようにする。

8) 胴回り、腹回り、腰回り

力士の場合、どの部位が大きいのかを知るために3個所を測定した。その一番大きい部位をもとに身幅を決めることにした。その結果、各平均値が胴回り112.2cm、腹回り114.6cm、腰回り117.9cmと順に大きくなっている。しかし、中には腰回りより胴回りが大きい者1名、腹回りが大きい者5名いた。この6名については、腰回りの他にその部位の数値も示すことにした。腰回りをもとに各身幅を決めるために一般的に用いられている配分にしたがって全身幅を腰回りの1.5倍とみなし、全身幅を後幅、前幅、衿幅に分ける。その比率を後幅：前幅=5：4、前幅：衿幅=3：2とすると、後幅15：前幅12：衿幅8となる。この比率をもとに、各幅寸法は次の式によって求められる。

$$\text{後幅} \cdots \text{腰回り} \times 1.5 \times 1/2 \times 15/35$$

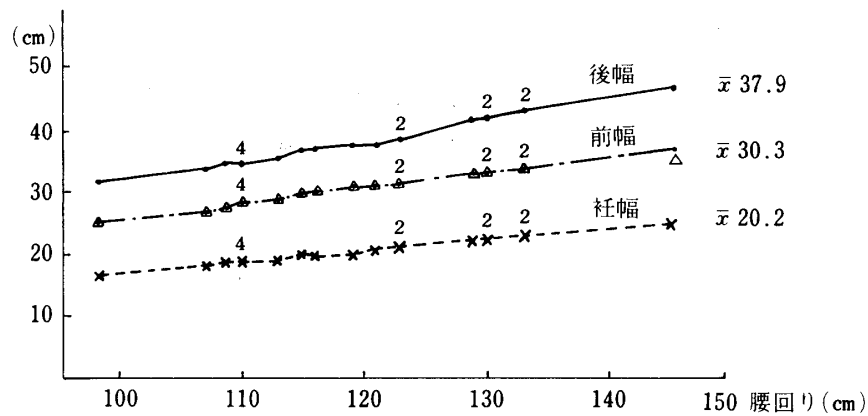


図7 腰回りと後幅・前幅・衽幅との関係

前幅…腰回り×1.5×1/2×12/35

衽幅…腰回り×1.5×1/2×8/35

その結果は表2と図7のようであり、各部の平均値は後幅37.9cm、前幅30.3cm、衽幅20.2cmであった。最大寸法の後幅46.6cm、前幅37.3cm、衽幅24.9cmで、これらの裁ち方には工夫が必要であるので裁ち方のところで後述する。

#### 9) 外果高

外果高はきもの着丈を決める場合のポイントであり、その高さは8cm～10cmで、平均値は9cmであった。最近の若者は「ゆき」と同様「着丈」も外果点が隠れる位を好むので、着丈を2cm長くするか、外果高を短くするか、好みによって調節することが望ましい。

#### 10) 手長

袖口を決める目安として必要であり手長にゆとり10cm内外を加えたものとする。

手長は19cm～22cmにおよんでおり、平均値は約20.4cmで一般人と余り変らない。

#### 11) 衽下り

衽下りは31cm～35cmで、平均値は32.6cmであった。これは一般に用いられている計測にしたがって、頸側点から乳頭間幅の中央までを測ったものであるが、力士は肥っていて乳頭が垂れ下がっているため、衽下りの計測値が長くなっており、「ゆかた」の形のバランスを考慮すると25cm内外と想定できる。

以上で力士の和服寸法に関わる部位を計測することができたが、大きくて肥っているため、計測点や基準線を探すのに苦労した。また、身長や体重が同じでも、手の長さ、肉の付き方がそれぞれ異なるので寸法も自然に違ってくる。

#### 4. 裁ち方

力士のきもに関する資料を得たいと考え、都内のデパート5軒，専門店5店，個人仕立屋5軒について調査を行った。その結果，ほとんどが首をかしげるのみで解答は得られなかった。しかし，最後に某呉服店に辿りついた。この店では，相撲関係のきもの，のれん，座蒲団等を扱っており，2～3代にわたって相撲部屋に出入りし，仕立てを受け持っているということであった。この店の主人は，資料はないが，すべて頭にインプットされているとのことで，その聴き取り調査の結果を報告する。

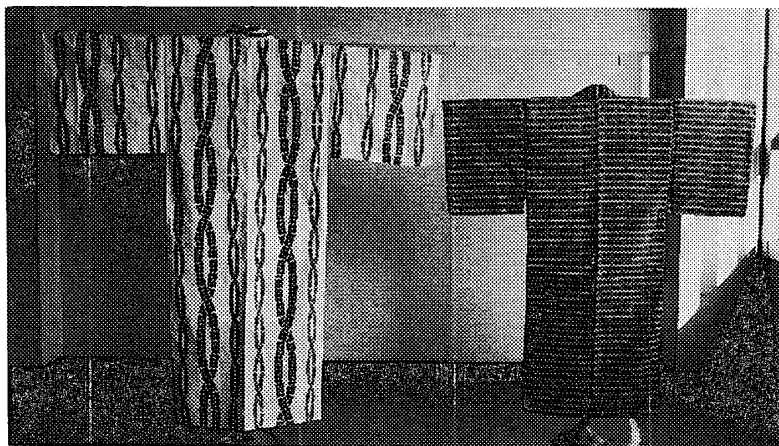
力士は身長も体重もすぐ変わってしまうので常に新しいデータが必要であり，外国人力士の場合はお尻が大きいので，通常直線縫いをするところ，お腹の下から縫い線を曲げて胸部を小さく，腰回りを大きく広げて体にフィットさせるようにする。また，裁断については，布の関係で立体裁断をしたり，衿の裏を接いで見えない部分に晒を用いたり，袖や身ごろに割りを入れたりするとのことである。昔の力士の「ゆかた」は，体格がどんなに大きくても三段目以下の者はきもの袖に割りを入れることができなく，ゆきの短いきものを着ていたが，現在はそのような区別もなく体格に合った寸法で仕立て，大きめのきものは，早くそのように成長したいとの願いが込められて好まれるとのことである。

力士の「ゆかた」を一般標準寸法のものと比較すると，**図8**のように形態上からも大きいことがわかる。また，和服寸法についても**表3**のように，着丈，ゆき，後幅，前幅，衿幅，衿下が特に大である。

「ゆかた」の反物は並幅36cm内外で，長さは11mから12mのものが多い。そこで，限られた用布で大きなものを裁つことは工夫が必要である。

裁ち方についてみると**図9**のようである。

A，Bの裁ち方は，興津佳平著『和裁 技能三』によるものである。



**図8** 力士と一般標準寸法のゆかた

表3 和服寸法 (単位 cm)

名称	標準寸法	力士 <sup>※1)</sup>	本調査 <sup>※2)</sup>
着 丈 ゆき 衿	141 内外		149
	67	79.6	76.3
袖 幅	34		
袖 丈	50 内外	49.3	50 内外
袖 口	27~28	30.3	30.5
袖 付	40~43	43.6	43
袖 丸 み	1.5~2		1.5~2
人 形	10 内外		10 内外
内揚げの位置(後)	50~54		入れない
	(前) 54~58		〃
衿 肩 明	8.5	10.6	10.5
肩 幅	33		
後 幅	30	いっぱい	37.9(34)
前 幅	25~27	34.1	30.3(34)
衿 下 り	20		23~25
衿 下 幅	70 内外	77.7	80 内外
衿 幅	15~16	20.9	20.2
合 褙 幅	13.5~14.5	17.4	19
衿 幅	6	5.7	6 { 5.5上 6.5下

注 ※1) 興津佳平著(和裁技能3)より

※2) ( )内数字は身幅いっぱいとする

Aは衿が棒裁ちで袖割りが三つ割りになり、ゆきが76cmまでである。

Bは袖割りを二つ割りにするので、衿は、かぎ裁ちとなり、この場合掛衿は取れないので、つまみにする。他に衿を半幅使いにして、衿を三つ割りに取り、掛衿下をぬく裁ち方もある。

Cは袖割りを二つ割りにして衿が棒裁ちで、衿より衿と掛衿を裁ち出す方法である。

Dは袖を二つ取り、幅を二分して衿と袖割りとに分け、さらに袖割りを二分する。掛衿は取れないので、つまみにする。

Eは腰回りの寸法が大きく後幅、前幅、衿幅の間で調整できない場合、袖割りのみでなく身ごろにも割りが必要となり、割りを入れる。図10のようである。

以上の点から、着丈は150cm、ゆき76cm、腰回り110cm位ならば、長尺の1反であれば裁ち出すことができるが、それ以上では難しくなる。また、着丈が150cm以下でも腰回りが大きい場合、身ごろにも割りが必要となる。したがって力士の用布は1500cm以上は必要と考えられる。

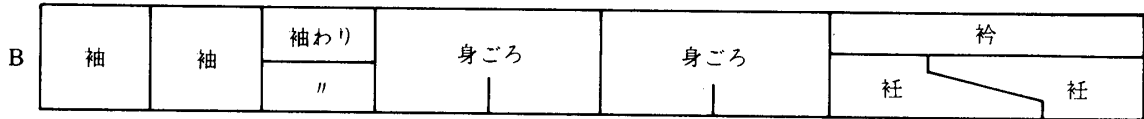
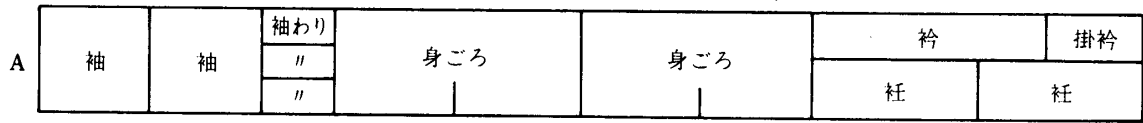
## 5. 縫製

縫製については普通の人と同様に仕立てるが、力士のうちでも肥満体と痩せ型、また出腹のタイプなどには寸法の違いがあるので、体格に応じた寸法で縫製する。

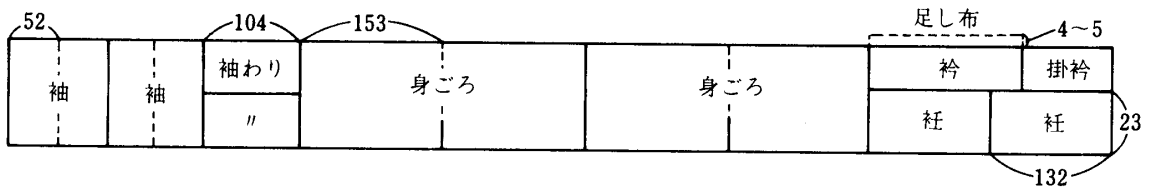
現在では丈夫に仕立てるためにミシンを使用し、2度縫いや、2度止を行って、綻びないように

A・Bは奥津佳平著（和裁技能3）による

（単位 cm）

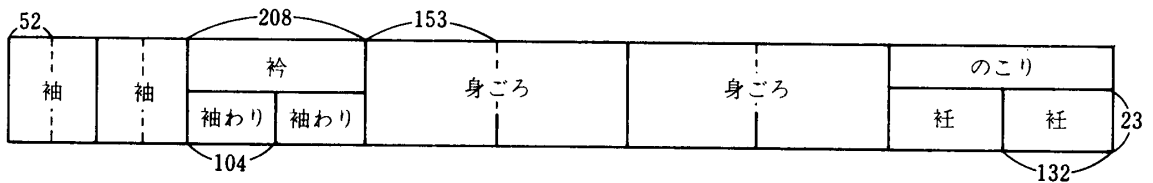


C. 本調査の平均値による（衿裏に足し布をする）



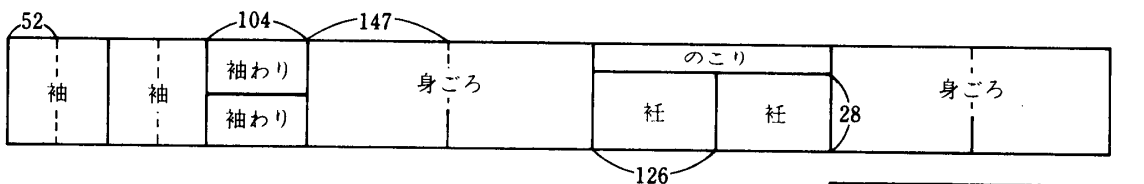
必要総丈 1188

D. 本調査の平均値による（かけ衿がとれないのでつまみにする）



・身ごろに幅たしをしない場合 { 後幅をいっぱいにして  
前幅と衿で不足分を補う 必要総丈 1292

E. 本調査の最大寸法による（袖、身ごろともにわりが入る）



・のこりは衿芯などに使用

必要総丈 1,446

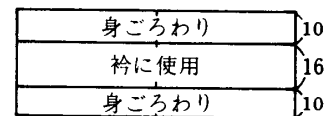


図9 裁ち方

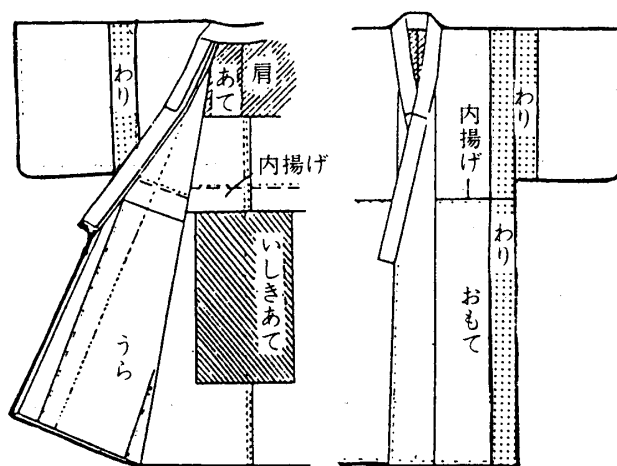


図10 わりの入ったゆかた

にしている。また美的考慮により、表から見える個所は手縫いとし、裏など見えないところはミシン仕立てとなっている。

裏面の肩当は厚めで上質の晒を使用し、横布使いで肩幅いっぱいにつける。また、居敷当は長さ55cm内外のものを背から60cm（背丈より10cm下）位のところに当てて三方をくけつけ、下方は開けておく。

衿に入れる芯は普通は1枚であるが、2～3枚入れて厚くしっかりとさせる。また、鬘を結っているので、鬘のたぼが衿に引っ掛からないようにばち衿にして着用を容易にする。

衿先は帯から6cm位出るのがよいとされているが、10cmは必要ではなかろうか。

内揚げは用布が足りないのではないことにしている。

相撲部屋には同じ「ゆかた」が多いので下前の衿先に個人名を入れる。

力士の「ゆかた」を製作する場合、特注以外のものは、どうしても用布が不足するので、布を裂いて縫い合わせたり、一枚の布をつまんで縫い付け、表から見では分からないように工夫を凝らす必要があることがわかる。

### Ⅲ. まとめ

以上の結果をまとめると次のようなことが言える。

1. 相撲は厳しい階級社会であり、それが着装面にも慣習として厳存する。番付の十両以上の正装は紋付き羽織袴となるが、幕下以下では細分化された着装のしきたりがある。
2. 両国の国技館では、大相撲夏場所になると、衣替えによる力士の粋な「ゆかた」ファッション・ショーの感がある。しこ名の入った柄を中心に、開運の図柄、人文字絵、大胆でカラフルな有名デザイナーの図柄などである。

3. 身体計測の結果、力士は一般人より身長が22.2cm、体重で53.2kg大きく、1.8倍であり、各計測部がはるかに大きいことがわかった。
4. 力士の着丈は背総丈に5 cm内外加えたものであるが、これは肩の厚み分と考えられるので、アンコ型とソップ型によって加減しながら、アンコ型の人は5 cm以上即ち肩の前後3.8cmづつとすれば、約8 cm加える必要がある。
5. ゆきの平均が76.3cmと長く袖に割りを入れる必要があり、ゆきは身長42%内外として求めることができる。
6. 身体計測の結果、着丈、ゆき、腰回りの関係から裁ち方を5例あげたが、袖に割りが入り、後幅・前幅をいっばいに、衽幅を広くして裁てるのと、袖に割りが入り、掛衿なしで衿をつまんで掛衿とみなす方法、さらに腰回りが大きく、袖と身ごろに割りを入れる裁ち方である。したがって力士の用布は1500cm以上は必要である。
7. 縫製については、丈夫に仕立てるために、表から見える部分は手縫いであるが、裏はミシンで2度縫い、2度止めで、強固にするのが一般的である。

力士の「ゆかた」は時代とともに変化し、粋でゴージャスになり、裁ち方も工夫され、縫製は簡略にしかも機能を十分果たしながら、美を追求していると考えられる。

最近では体位も向上し、一般人でも身長が高く肥った人には力士の裁ち方も一応の参考になるのではと考えられる。

終わりに、本研究に便宜をお与えくださった日本相撲協会、理事長出羽海智敬様、ならびに力士の方々、藤田屋様、その他多くの方々に厚くお礼申し上げます。

#### 参考文献

- 1) 日本風俗史事典 日本風俗史学会 弘文堂 (1979)
- 2) 日本相撲大鑑 窪寺紘一 新人物往来社 (1992)
- 3) 相撲社会の研究 生沼芳弘 不昧堂出版 (1995)
- 4) 大相撲ものしり帖 池田雅雄 ベースボールマガジン社 (1992)
- 5) 大相撲意外史 小島貞二 千人社 (1983)
- 6) 相撲の歴史 新田一郎 山川出版社 (1994)
- 7) 相撲錦絵蒐集譚 ジョージ石黒 西田書店 (1994)
- 8) 大相撲 出羽海智敬、向坂松彦 同文書院 (1994)
- 9) 大相撲 出羽錦忠雄 高橋書店 (1992)
- 10) なるほど大相撲 北出清五郎 PHP 研究所 (1993)
- 11) 力士100年の診断書 林盈六 ベースボールマガジン社 (1984)
- 12) 相撲界 池田郁雄 ベースボールマガジン社 (1994)
- 13) 和裁 (技能 1. 2. 3) 興津佳平 帝都印刷製本 K K (1991)
- 14) 立体和裁 谷扶嵯子 主婦と生活社 (1987)

- 15) 和裁全書 主婦の友社 主婦の友社 (1961)
- 16) 和裁 石田はる 主婦の友社 (1984)
- 17) 現代の和服 大学・短期大学和服研究会 相川書房 (1990)
- 18) きものの文様 石崎忠司 衣生活研究会 (1978)
- 19) 婦人用ゆかたに関する考察 本間小枝子 跡見学園短期大学紀要第23集 (1987)
- 20) 国民栄養の現状 厚生省保険医療局健康増進栄養課 第一出版 (1994)

本稿は平成6年度跡見学園特別研究助成費によるものである。